

# 令和8年 新春号

# まじり

酒田市農業委員会報 No.71



「正月を迎える師走の風物詩」(浜中地区 門松づくり)

いあつわし



酒田市農業委員会  
会長  
齋藤 均

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より本市農業委員会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は人智というものの脆弱さをコメとクマに思い知らされた一年でした。特にコメの場合は検討に用いる元のデータに間違いがあり、いまだに混乱が続いています。AIがいくら進化していても現実をしっかりと見る目がないといけませんね。そして、大変でも理解度を高め、みんなが納得する形に少しでも近づけていきたいものです。そういった理想の形に向かうように農業は頑張っています。市民の皆さまにおかれましても地元農産物の応援団として引き続きの支援をよろしくお願いいたします。



## 特集

# 鳥獣や松枯れによる農業被害と対応 ～私たちにできること～



▲クマに荒らされた養蜂箱（浜中地区）

本市に寄せられたツキノワグマの目撃件数は下段のグラフ①のとおりで、近年は増加傾向にあります。また、今年度は過去20年間で最多だった令和5年度の目撃件数

### ツキノワグマ

今回の特集では、農業被害として、クマ、イノシシによる獣害と、古くから防風林としての役割を果たしてきたクロマツ林の松枯れ被害の状況をお伝えし、私たちにできることをご紹介します。

昨年は、本市でのクマの出没が非常に多かった年として、皆さんの記憶にも新しいことと思います。特に山間部だけでなく、いわゆる平場の農地や民家近くに現れるなどして、実際に農業被害も出ています。

が、クマに荒らされた養蜂箱（浜中地区）



▲イノシシに荒らされた「あぜ」（八幡地区）

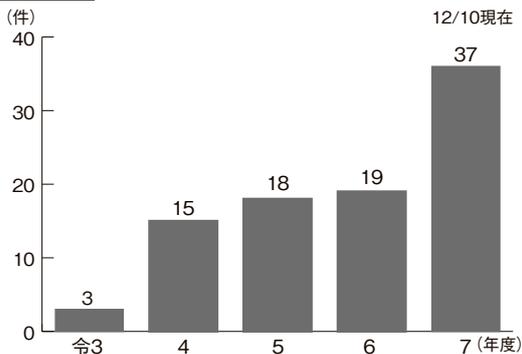
本市に寄せられたツキノワグマの目撃件数は下段のグラフ①のとおりで、近年は増加傾向にあります。また、今年度は過去20年間で最多だった令和5年度の目撃件数

これまで、庄内地方ではほとんど見ることのなかったイノシシですが、グラフ②のとおり、近年は目撃件数が増えています（昨年12月10日時点）。また、その多くが農地で目撃されています。

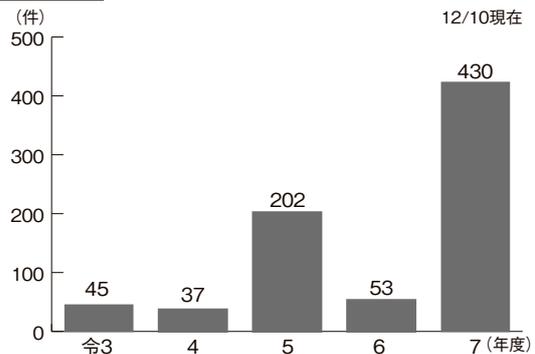
### イノシシ

クマによる農作物被害としては、ほとんどが柿の被害で、ほかに栗や養蜂箱の被害が報告されています。2022年の2倍以上となる430件の目撃が確認されています（昨年12月10日時点）。

グラフ② イノシシ出没・目撃件数



グラフ① ツキノワグマ出没・目撃件数



## 農業委員が本市農林水産部課長に現状を伝え、意見交換

昨年の12月5日に開催された、農業委員と本市の農林水産部長、農政課長および農林水産課長との意見交換会でも、鳥獣等による農業被害について、農業委員が日頃の地域活動で感じていることや、現場の農業者の生の声を伝えました。

部課長からは、クマ、イノシシ、松枯れによる深刻な被害状況について改めて認識していただき、今後より一層お互いの情報交換などをしていくこと、行政として有効な施策を農業委員会とも一緒に考えていくことを確認しました。



▲現場の切実な声を伝え、提案を行いました

## 松枯れ

本市の海岸線からの飛砂や強風から、私たちの生活を守ってきたクロマツ林。グラフ③のとおり、近年、松くい虫による松枯れの被害が急速に拡大し、深刻な状況となっております。皆さんも見慣れたクロマツ林がかなり茶色になっていると感じているのではないのでしょうか。

も報告されています。また、農作物そのものの被害ではありませんが、田んぼに水を溜め、水漏れを防ぐための「あぜ」が掘り起こされ、崩壊する被害も報告されています。

松枯れの原因は、マツノマダラカミキリという昆虫が運ぶマツノザイセンチュウという外来種の線虫です。松の樹体内に侵入すると爆発的に増殖し、通水障害などを引き起こして松を枯らします。松枯れによる農業被害としては、農地や農業用施設への倒木による



▲倒木で損壊したビニールハウス (浜中地区)

## 私たちにできること

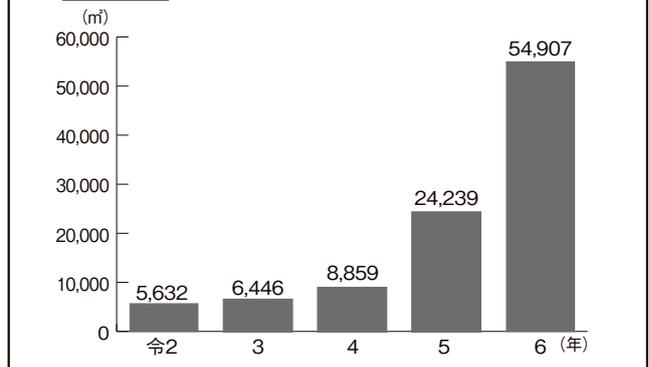
鳥獣による農業被害を軽減するため、私たちにできることは、鳥獣が農地に近づかないようにすることです。具体的には、収穫後の野菜くずや「ひこばえ」は土に鋤き込むなどして放置しないこと。自宅敷地内の柿や栗の木も含め、不要果樹は伐採するなどして放置しないこと。鳥獣の隠れ場所をな

被害があります。

枯れた松が倒れてビニールハウスを損壊したり、電線を切断して給水用ポンプや農業用施設が使えなくなったりするなど、営農に大きな支障が出ています。また、松枯れは、身近な公園や住宅地など私たちの生活圏にも広がっています。

クマ被害や事故は早朝や夕暮れ時に特に起こりやすいので、農作業時も音の鳴るものなどを携帯して気をつけてください。松枯れについては残念ながら現在有効な予防策はありません。所有地の松が枯れた場合は、市の伐倒駆除支援がありますので、詳しくは酒田市広報(1月1日号)等をご覧ください。皆さんで安全安心な農業・農村環境を作っていきましょう。

グラフ③ 松くい虫による民有林の被害状況



出典:令和7年度第1回庄内海岸松くい虫被害対策強化プロジェクト会議資料

# キラリな女性

かがやく  
女性農業者

自然と向き合い、一粒に  
想いを込める米作り



酒田市光ヶ丘  
木賀 佳南

私は株式会社アグレストに入社して、お米作りに携わって5年が経とうとしています。祖父母が数年前まで米農家をしており、幼い頃から農作業の手伝いをするなかで農業が大好きになり、この道に進みました。出身は新庄市ですが、縁あって酒田市に来て、今の職場で、季節ごとに姿を変える鳥海山を毎日眺めながら大好きなお米作りに励んでいます。

今、自分の手でお米を育てるようになり、改めて農業の奥深さと繊細さを感じています。

お米作りは1年を通して一つの作業に基本的なやり方がありますが、実際はその年の気温や雨の量、田んぼの状態など毎年条件

が違い、思うようにいかないことの方が多いです。そのたびに田んぼを見ながら判断し、試行錯誤を重ね、苦労しながら育てていきますが、その分だけおいしいお米ができた時の喜びは大きく、日々やりがいを感じます。

近年は米価の高騰などにより、これまで当たり前前に食卓にあったごはんが当たり前ではなくなりつつあります。だからこそ食卓に並ぶお米の一粒一粒に、農家の思いや努力が詰まっていることをもっと多くの人に知ってもらいたいと思っています。

まだまだ学ぶこと、知らないことばかりですが、若い世代ならではの感性で米づくりに挑戦する姿や自然と向き合う農業の魅力など

様々な情報を発信し、酒田の農業を元気にしていきたいです。



農業に関するはてなを解消

## 教えてキラリン



今号のテーマ

### 農業者年金って何？

農業者のための公的な積立年金です。農業者年金は、国民年金の第1号被保険者である農業者が、より豊かな老後生活を過ごすことができるよう国民年金(基礎年金)に上乗せした、公的な年金制度です。

### Q どういう人が加入できるの？

国民年金の第1号被保険者(保険料納付免除者を除く)で、年間60日以上農業に従事する20歳以上60歳未満の人はだれでも加入できます(要件有)。また、60歳以上65歳未満で国民年金に任意加入している方(要件有)も加入できます(令和4年5月から)。

### Q 保険料はいくらなの？

保険料は自由に決められます。月額2万円から6万7千円の

間で1千円単位で自由に選択でき、いつでも変更することができます。さらに35歳未満の方は、1万円からでも加入できます。また、途中脱退、再加入もできます。

### Q 税制面で優遇があるの？

支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となります。同一生計の家族の保険料を負担した場合も控除の対象となります。

また、翌年一年分の保険料を前納することもできます(申し込みは11月15日まで)。その場合、当年と翌年のどちらかを選択して申告することができます。

農業者年金で  
安心して豊かな老後を！



農業者年金のことは  
市農業委員会事務局まで  
Tel 26-5767  
※農業者年金のことがよく  
分かる農業者年金基金  
動画はこちらから



# かぜ

～若手農業者リレーエッセイ～



私の家は水稲農家で、小学生の頃から米作りの作業が好きで手伝いをしていました。ですが、高校卒業後は社員として就職し、約20年間働いていました。就農するきっかけは、地域の方が離農することになり委託を受けたからです。私が農業を始めたときは新型コロナの影響で米価が下がり、また肥料も高騰し「今、米を作っていてメリットがあるのか」と思いました。でも私自身、米作りは好きで、大変さの中にも確かなやりがいがあり、消費者の皆さんに美味しいお米を届けるという使命感がありました。

農業を取り巻く環境は、生産者の高齢化や担い手不足、遊休農地の増加、気候変動や資材高騰といった情勢に直面していま

## 就農5年目

### 新堀地区 後藤 裕

す。現在米価も高騰しています。この米価は農家の私たちでもびっくりしています。今後米離れが起きないよう、農家と消費者が納得できる価格で販売できたらと思います。

私は今、農協青年部に所属し、食農教育活動や地域青年部同士の情報交換や交流、次世代への農業の魅力や食と農の大切さを伝える活動もしています。

農業に携わって5年。これからの農業は新規就農者への支援、技術指導で安定した収入確保や労働負担の軽減をしなくてはなりません。これに欠かせないのはスマート農業です。効率化と省力化に取り組み、法人で農地を集約し大規模経営で大量生産や安定供給を行う、持続可能な農業、かつ儲かる産業にしていきたいと考えています。地域の農業を支え、より一層おいしいお米を作っていきたく思います。



### 新潟県魚沼市農業委員会が視察来訪

令和7年11月10日、新潟県魚沼市農業委員会の皆さん15名が、本市農業委員会に視察に見えられました。当日は、地域計画へのかかわり方、農地の集約に向けた取り組み、中山間地における課題など、多岐にわたり意見交換を行いました。



### 酒田市の食育ハンドブックから

～季節の野菜を使ったレシピを紹介～

## 『ばんけみそ』

#### 【材料】 4人分

フキノトウ 3個  
塩 小さじ1程度  
＜合わせ調味料＞  
みそ 80g  
油 適量  
砂糖 30g  
みりん 大さじ1



#### 【作り方】

- ①フキノトウは、外側と根元や葉先の黒くなっている部分を取り除き、きれいに水洗いする。
- ②塩を入れたたっぷりのお湯で1分くらいゆでてざるに取り、冷水にさらした後、水気を切って細かく刻む。
- ③鍋に油を熱し、②をさっと炒める。合わせ調味料を加えて弱火にし、水分がなくなるまでよく練り上げる。

## 全国農業新聞

農家の経営とくらしに役立つ情報を農業者の視点でお届けします

●発行日 毎週金曜日

●購読料 1か月 700円

※お申し込みは農業委員会へ

#### 購読料改定のお知らせ

発行経費の増加から、令和8年4月から月額700円を900円に改定します。ご理解・ご協力をお願いします。

# 農業一筋

## 農業委員がおじゃまして

### お聞きしました！

松山地区

莊司 徳由 ご夫妻



息子さん3人で暮らしている莊司徳由さん(74歳)と千代さん(71歳)ご夫妻。現在は息子さんに経営移譲し、息子さんが認定農業者として水稻約18畝を作付けしています。

徳由さんは農家に生まれ、親からは「米でやっていけるから後を継げ」と言われたそうですが、時は農政の転換期。いわゆる減反政策が始まる頃であり、本人は今後の農業に不安を感じていたそう。「正直農業はやる気はなかったけど、まずは親に従い庄内農業高校に入った。けれど、土木の仕事に興味があり、そのまま土木会社に就職した」と振り返る徳由さん。「そしたら、与えられた仕事が田の基盤整備で、なんとも皮肉な感じが

したよ」と笑います。

徳由さんが会社勤めしたこともあり、当時は農地を貸す側になり、残っていた約90坪の田を、仕事をしながら営農していました。とはいえ、当時は基盤整備が盛んな時代。毎日遅くまで会社仕事をして、翌朝作業や、帰宅後の夜に作業をして大変だったと振り返ります。

息さんが就農してからは、受ける側になり、現在の規模まで拡大。「息子とはよく話しているけど、最後は息子を尊重し、責任とお金を任せることが大事」と語ります。千代さんは自家用の畑作業が趣味。徳由さんは多趣味で月に4冊は読むという読書家の一面も。「今後は、規模拡大と会社化の必要を感じる。通年での田の活用も考えた方がいい」と将来を見据える徳由さん。これからもご夫婦夫婦仲睦まじくお過ごしください。(佐藤利篤委員)



## おしらせ

令和8年度  
酒田市参考賃借料(10ア当たり)

農地	区分	令和8年度	令和7年度	基準収量
田	1	10,000円	10,000円	600kg
	2	8,000円	8,000円	580kg
	3	5,000円	5,000円	550kg
	4	2,500円	2,500円	520kg
	5	1,000円	1,000円	480kg
畑		3,000円	3,000円	

酒田市農地集積センター 参考賃借料検討協議会 作成

※右表はあくまでも参考ですので、委託者・受託者双方で相談して決定してください。

○令和8年度の参考賃借料は、例年どおり酒田市農地集積センター参考賃借料検討協議会で協議・決定したものです。

### 来所の際はご予約を

例年、農閑期に当たる冬季間は、農業委員会の窓口が大変混雑します。農地の移動、転用、経営移譲

や農業者年金等で手続きや相談の予定がある方は、事前に電話で、お名前、住所、相談内容を伝え、ご予約のうえ、来所くださるようお願いいたします。 ☎26-5767

## 編集後記

今号の表紙写真である浜中地区の門松づくりは、毎年各組織が集まり新年を迎えるための恒例行事です。

毎年青々としたクロマツの枝を少し頂きながら作っているのですが、今回は、松枯れの被害があまりにもひどく、材料集めも一苦労したと思います。

今までクロマツがあることが普通だったのですが、なくなつて、改めてクロマツがとても大事なものだということを思い知らされています。

近年は鳥獣被害も頻繁に聞くようになりまし。全てにおいて温暖化が影響しているのでは、と思つてしまいます。

早く以前のような青々としたクロマツ林が再生して、安心して砂丘地農業が続けられることを心から願っています。(高橋)